

CORRESPONDENCE MANAGEMENT SOLUTION のインストール



法律上の注意

法律上の注意については、http://help.adobe.com/ja_JP/legalnotices/index.html を参照してください。

コンテンツ

第1章：このドキュメントの内容

1.1 このガイドで使用する表記	1
1.2 ドキュメントとリソース	1

第2章：概要

第3章：Correspondence Management Solution のインストール

3.1 インストーラーの確認	4
3.2 製品ファイルのインストール	4
3.3 次の手順	5

第4章：Correspondence Management Solution の設定およびデプロイ

4.1 LiveCycle モジュールおよびタスクへの依存関係	6
4.2 Configuration Manager の実行	6
4.3 ソリューションテンプレートへのアクセス	7
4.4 次の手順	7

第5章：デプロイメント完了後の作業

5.1 Correspondence Management の作成者インスタンスクラスター化	8
5.2 発行インスタンスの設定	9
5.3 LiveCycle と Correspondence Management Solution との統合	11
5.4 サンプルユーザーのインストール	11
5.5 IPv6 実装の設定	12
5.6 Adobe Reader 用日本語フォントのインストール	12
5.7 Correspondence Management Solution のアンインストール	12
5.8 Dispatcher を使用した作成者クラスター / パブリッシュファームのロードバランシング	13

第1章：このドキュメントの内容

このガイドでは、Correspondence Management Solution のインストール、設定およびデプロイの方法について説明します。

このガイドに記載する内容は、Correspondence Management Solution のインストール、設定およびデプロイを担当する管理者を対象にしています。記載する内容は、このガイドの読者が、Adobe® LiveCycle® Enterprise Suite 3 (ES3) のインストールと操作の経験があることを前提としています。

1.1 このガイドで使用する表記

このガイドは以下の命名規則を使用しています。

名前	デフォルト値	説明
[LiveCycle root]	Windows： C:\Adobe\Adobe LiveCycle ES3 Unix： opt/adobe/adobe_lifecycle_es3	すべての LiveCycle モジュールで使用するインストールディレクトリ。このインストールディレクトリには、Adobe® LiveCycle® Configuration Manager のサブディレクトリも含まれます。このディレクトリには、サードパーティ製品に関連したディレクトリも含まれます。

1.2 ドキュメントとリソース

ドキュメントセットと関連リソースは、LiveCycle を使用して Correspondence Management Solution の計画、インストール、開発および展開を行う際の指針として利用できます。

アーキテクト、デザイナー、および開発者は、アドビおよびパートナーのコミュニティを通して、様々なサポートサービスとリソースを利用できます。ドキュメント一式は http://www.adobe.com/go/learn_lc_documentation_10_jp から入手できます。

リソース	対象者	説明
Correspondence Management Solution のソリューションガイド	ソリューションアーキテクト、ビジネスアナリスト、プロジェクトマネージャー、設計者、アプリケーションスペシャリストおよび開発者	<p>Solution の紹介と次の情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solution の概要 • 現在の通信の解析 • ユーザーストーリー • Solution の手順
開発ガイド	開発者、管理者	<p>次の項目に関する詳細な技術情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アーキテクチャ • Solution のコンポーネント • 開発環境の設定方法 • 開発者のユーザーストーリー
構築ブロックテクニカルガイド	開発者	<p>ソリューションに構築ブロックを実装する方法について技術的に詳しく説明しています。構築ブロックテクニカルガイドには、次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 構築ブロックの概要 • アーキテクチャ • 構築ブロックの仕組み • サービス、プロセス、ツール、スキーマなどの構築ブロックのアセットの詳細 • ユーザーストーリーの実装の詳細
ActionScript® 3.0 Reference リファレンス	開発者	Flash® Platform 内のツール、ランタイム、サービス、サーバー用の ActionScript 言語要素、コアライブラリおよびコンポーネントのパッケージとクラスが含まれています。
API リファレンス (Javadocs)	開発者	Correspondence Management Solution 用の Java® API インターフェイスおよびクラスについて説明します。
Adobe Developer Connection	ソリューションアーキテクト、ビジネスアナリスト、プロジェクトマネージャー、デザイナーおよび開発者	LiveCycle デベロッパーセンターには、クイックスタートコンテンツ、チュートリアル、ビデオ、ダウンロード、サンプル、テクニカルガイドライン、ブログなどが掲載されています。

第2章：概要

Correspondence Management Solution は、事前に定義されたコンテンツのフラグメントを使用して、個人に合わせた通信を作成できる拡張およびカスタマイズ可能なソリューションです。これにより開発時間を短縮し、品質を向上できます。これには、再利用可能なコンポーネントとテクニカルガイドで構成されている実稼動対応の構築ブロックのセットが付属しています。

次の手順に従って Correspondence Management Solution をインストールおよび設定します。

- 1 LiveCycle ES3 をインストールするか、または LiveCycle ES3 にアップグレードします。詳しくは、
http://www.adobe.com/go/learn_lc_documentation_10_jp で、該当するインストールまたはアップグレードのドキュメントを参照してください。
- 2 Correspondence Management Solution をインストールします。4 ページの「[Correspondence Management Solution のインストール](#)」を参照してください。
- 3 LiveCycle Configuration Manager を使用して、Correspondence Management Solution を設定します。6 ページの「[Correspondence Management Solution の設定およびデプロイ](#)」を参照してください。
- 4 デプロイメント完了後の作業を実行します。8 ページの「[デプロイメント完了後の作業](#)」を参照してください。

第3章：Correspondence Management Solution のインストール

Correspondence Management Solution のインストール、設定およびデプロイでは、製品ファイルをインストールし LiveCycle Configuration Manager を実行します。

注意：Correspondence Management Solution をインストールする前に、LiveCycle ES3 がインストールされていることを確認してください。LiveCycle ES Update 1、LiveCycle ES2 または LiveCycle ES2.5 を使用している場合は、まず LiveCycle ES3 にアップグレードする必要があります。詳しくは、LiveCycle ES3 アップグレードドキュメントを参照してください。

3.1 インストーラーの確認

入手したインストールメディアが破損していないことを確認します。インストールメディアの内容をコンピューターのハードディスクにコピーする場合は、必ず DVD の内容全体をハードディスクにコピーしてください。

注意：インストールエラーを避けるには、Windows のパスの最大長を超えるディレクトリパスに DVD インストールイメージをコピーしないでください。

アドビの Web サイトからインストーラーをダウンロードした場合は、MD5 チェックサムなどのシステムユーティリティを使用してインストーラーファイルの整合性を検証してください。LiveCycle MD5 チェックサムのコードを確認するには、[ここ](#)をクリックします。

注意：抽出したインストールパッケージのディレクトリ構造は、変更しないようにしてください。

3.2 製品ファイルのインストール

1 インストールプログラムを起動します。

- **(Windows)** 次のいずれかを実行します。
 - solutions ディレクトリを開き、run_windows_installer.bat ファイルを実行します。バッチファイルによって、Windows のバージョンに適したインストーラー（32 ビット版または 64 ビット版）が起動されます。
 - インストーラーをコピーしたディレクトリに移動し、install.exe ファイルをダブルクリックします。
 (32 ビット版) \solutions\Disk1\InstData\Windows\VM
 (64 ビット版) \solutions\Disk1\InstData\Windows_64\VM
- **(AIX, Linux, Solaris)** インストーラーをコピーしたディレクトリに移動し、コマンドプロンプトで ./install.bin コマンドを実行します。
 - **(AIX)** /solutions/Disk1/InstData/AIX/NoVM
 - **(Linux)** /solutions/Disk1/InstData/Linux/NoVM
 - **(Solaris)** /solutions/Disk1/InstData/Solaris/NoVM

注意：AIX、Linux、Solaris の場合は、インストールファイルに実行権限を設定する必要があります。

2 プロンプトが表示されたら、インストールプログラムで使用する言語を選択して、「OK」をクリックします。

- 3 ようこそ画面で「次へ」をクリックします。
- 4 使用許諾契約書を読み、「**使用許諾契約書の条件に同意します**」を選択して使用許諾契約書の条件に同意し、「次へ」をクリックします。
- 5 フォルダを選択画面で、LiveCycle ES3 インストールディレクトリが指定されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 6 インストール前の概要を確認し、「**インストール**」をクリックして Correspondence Management Solution をインストールします。
- 7 Adobe LiveCycle ES3 リリースノートを読み、「次へ」をクリックします。
- 8 インストール完了画面で詳細情報を確認します。「**LiveCycle Configuration Manager を起動**」チェックボックスはデフォルトで選択されています。「完了」をクリックして Configuration Manager を実行します。
注意：Configuration Manager を後で実行するには、「完了」をクリックする前に、「LiveCycle Configuration Manager を起動」オプションの選択を解除します。[LiveCycle root]/configurationManager/bin ディレクトリにある該当するスクリプトを使用して、LiveCycle Configuration Manager を後で起動することができます。

3.3 次の手順

Configuration Manager を起動して、Correspondence Management Solution を設定します。詳しくは、6 ページの「[Correspondence Management Solution の設定およびデプロイ](#)」を参照してください。

第4章：Correspondence Management Solution の設定およびデプロイ

Correspondence Management Solution をインストールしたら、Configuration Manager を実行してインストールを設定する必要があります。Configuration Manager で、EAR ファイルに LiveCycle モジュールを設定し、このモジュールをアプリケーションサーバーにデプロイします。また、LiveCycle コンポーネントをデプロイします。

重要：LiveCycle の設定用の Configuration Manager 画面のほかに、Correspondence Management Solution 固有の画面も表示されます。詳しくは、6 ページの「[4.2 Configuration Manager の実行](#)」を参照してください。

重要：Correspondence Management Solution は固有の LiveCycle モジュールとタスクに依存しています。 Configuration Manager の実行時は、これらのモジュールおよびタスクが選択されていることを確認する必要があります。 Configuration Manager を実行する前に、6 ページの「[4.1 LiveCycle モジュールおよびタスクへの依存関係](#)」の内容をお読みください。

4.1 LiveCycle モジュールおよびタスクへの依存関係

Correspondence Management Solution を正しく設定しスムーズに実行するには、モジュールの選択画面で、Adobe® LiveCycle® Forms 10 モジュールと Adobe® LiveCycle® Output 10 モジュールを選択する必要があります。

注意：既に設定されているパラメーターが表示されますが、この実行中は編集できません。これらのフィールドを編集可能にして値を変更する必要がある場合は、「[設定を編集](#)」をクリックします。例えば、**LiveCycle を設定**画面では、一時ファイルのディレクトリ、グローバルドキュメントストレージ (GDS) またはフォントを変更できます。

4.2 Configuration Manager の実行

ここで、Configuration Manager を実行して LiveCycle を設定する必要があります。使用しているアプリケーションサーバーの『[LiveCycle ES3 のインストールおよび設定](#)』ガイドを参照してください。LiveCycle ES3 のドキュメントは、すべて [LiveCycle ES3 ドキュメント Web サイト](#)で入手できます。

Configuration Manager の実行中に、以下の Correspondence Management Solution 用の設定画面が表示されます。

- Correspondence Management Solution の選択
- Correspondence Management Solution の設定
- Correspondence Management Solution のデプロイ

4.2.1 Correspondence Management Solution の選択

この画面で、「**Correspondence Management Solution 10.0.2**」オプションはデフォルトで選択されています。このオプションが選択されていると、Correspondence Management Solution の設定用の画面が表示されます。

「**Next**」をクリックして、続行します。

4.2.2 Correspondence Management Solution の設定

重要 : Windows 以外のマシンに Correspondence Management Solution をインストールする場合は、必ず、**ulimit (Open Files, -n)** パラメーターを **8192** に設定してください。そのように設定しないと、この手順で行った構成がエラーとなり、失敗することがあります。

この画面では、Correspondence Management Solution のコンテンツリポジトリへのパスを指定し、「Configure」をクリックして、指定した場所に必要なリポジトリファイルを作成します。

注意 : (手動インストールのカスタムモードのみ) LiveCycle サーバーをリモートで実行している場合は、「Server is running on remote host」を選択し、リモートホスト上のコンテンツリポジトリへのパスを指定します。

これにより、LiveCycle Core EAR ファイル内にバンドルされるように Correspondence Management Solution を設定します。

「Next」をクリックして、続行します。

 (自動インストールモードのみ) 元の LiveCycle Core EAR ファイルのバックアップ (Adobe-jboss-core-ear.orig) は、[LiveCycle root]\deploy フォルダーに取り込まれます。Correspondence Management Solution を含めずにセットアップを再度実行する場合には、EAR ファイルを復元できます。

4.2.3 Correspondence Management Solution の設定の要約

リモートでデプロイする場合は、[LiveCycle root]/configurationManager/export/crx-quickstart/ ディレクトリの内容を、Correspondence Management Solution Configuration 画面で指定したリモートホストの場所へコピーします。

注意 : クラスターデプロイメントの場合は、[LiveCycle root]/configurationManager/export/crx-quickstart/ ディレクトリの内容を、すべてのクラスターノードホスト上の指定した場所にコピーする必要があります。

4.2.4 Correspondence Management Solution のデプロイ

この画面で Admin ユーザー ID とパスワードを指定し、「Configure」をクリックして、修正した Web アプリケーションをパッケージ化して LiveCycle EAR にコピーします。

設定が完了したら、「Next」をクリックします。

4.3 ソリューションテンプレートへのアクセス

Correspondence Management Solution のデプロイメントを検証するには、
`http://[host]:[port]/lc/cm/manageassets.html` にアクセスし、ユーザー名に「admin」、パスワードに「admin」と指定してログインします。ソリューションテンプレートは、Correspondence Management Solution の参照実装です。

注意 : 自動インストール以外のデプロイメントでは、ソリューションテンプレートへのアクセス時にエラーが発生した場合、LiveCycle を Correspondence Management Solution に統合する必要があります。方法については、11 ページの「[5.3 LiveCycle と Correspondence Management Solution との統合](#)」を参照してください。

4.4 次の手順

ここで、Correspondence Management Solution および LiveCycle ES3 のインストール、設定およびデプロイが完了しました。Correspondence Management Solution の機能をフルに活用するには、さらに詳細な設定が必要です。詳しくは、8 ページの「[デプロイメント完了後の作業](#)」を参照してください。

第5章：デプロイメント完了後の作業

5.1 Correspondence Management の作成者インスタンス クラスター化

Correspondence Management ソリューションが配置されているときは、作成者インスタンスが同じサーバー上で LiveCycle ES3 として実行されます。ただし、LiveCycle クラスターを設定しても自動的に Correspondence Management 作成者インスタンスクラスターが設定されるわけではありません。このクラスターを手動で設定する必要があります。

作成者インスタンスクラスター化は LiveCycle クラスター化に依存しません。LiveCycle クラスターは、LiveCycle が Correspondence Management ソリューションと統合されているときは、作成者インスタンスクラスター化のためのバックエンドシステムとして機能します (11 ページの「[5.3 LiveCycle と Correspondence Management Solution との統合](#)」を参照)。Correspondence Management では、クラスター化の「何も共有しない」モードがサポートされています。

注意：「何も共有しない」モードの詳細については、[この技術記事](#)を参照してください。

次の手順に従って、Correspondence Management のクラスター化を設定します。

- 1 どのインスタンスがマスターインスタンスになるかを決定します。このインスタンスのホスト名とポート番号を書き取ります。例えば、マシン **node1:port 8080** でマスターインスタンスを実行している場合、そのアドレスは **node1:8080** です。
 - 2 マスターインスタンス以外のすべてのインスタンスは、スレーブインスタンスです。すべてのインスタンスの CRX コンソールは **http://<スレーブアドレス>/crx/index.jsp** にあります。
- 例えば、マシン **node2:port 8080** でスレーブインスタンスを実行している場合、その CRX コンソールに **http://node2:8080/crx/index.jsp** でログインできます。
- 3 スレーブインスタンスのコンソールにログインしたら、「リポジトリ設定」をクリックします。
 - 4 **リポジトリ設定**ページのツールリストで、「クラスター」をクリックします。
 - 5 クラスター設定ページで、「マスター URL」フィールドにマスターインスタンスの Web アドレスを入力します。この情報を次の書式で入力します。

`http://<master-address>/crx/config/cluster.jsp`

例えば、マスターインスタンスとスレーブインスタンスがそれぞれ **node1** と **node2** で実行している場合は、次のように入力します。

`http://node1:8080/crx/config/cluster.jsp`

- 6 CRX ユーザー名とパスワードを入力し、「参加」をクリックします。クラスターの設定には、管理者アクセスが必須です。
- 7 クラスターへの参加は数分かかることがあります。参加リクエストが成功したら、他の各スレーブインスタンスに対しても参加手順を繰り返し実行します。

注意：古いセッションを避けるために、スレーブインスタンスを再起動する必要があるかもしれません。

重要：クラスター内のすべての作成者インスタンスは、時間を同期させる必要があります。NTP (Network Time Protocol) サーバーを使用して時間を同期させることができます。

重要：Correspondence Management Solution でクラスター化を設定する場合は、CRX リポジトリパスにスペースが使用されていないことを確認します。

5.1.1 WebSphere 固有の要件

WebSphere アプリケーションアプリケーションで Dispatcher を使用するには、追加設定が必要です。Web コンテナに対して次のプロパティを「true」に設定する必要があります。

```
com.ibm.ws.webcontainer.extractHostHeaderPort  
trusthostheaderport
```

これらのプロパティを次のように設定します。

- 1 LiveCycle Administration Console で、Servers／Server Types／WebSphere application servers／[サーバー名]／Web Container Settings／Web container をクリックします。
- 2 「Additional Properties」で、「Custom Properties」をクリックします。
- 3 カスタムプロパティページで、「新規」をクリックします。
- 4 設定ページで、設定するカスタムプロパティの名前を「名前」フィールドに、設定値を「値」フィールドに入力します。
- 5 「Apply」または「OK」をクリックします。
- 6 コンソールタスクで「保存」をクリックして、設定の変更を保存します。
- 7 クラスター内のサーバーごとに、手順 1～6 を繰り返します。
- 8 クラスターを再起動します。

注意：default_host エイリアスリストに、WebSphere クラスターの上位で実行している Web サーバーと同じポート番号があることを確認してください。

5.2 発行インスタンスの設定

Correspondence Management Solution では、個別の作成者インスタンスと発行インスタンスを実行する必要があります。ただし、この 2 つのインスタンスは、同じマシンに設定することも、それぞれ別のマシンに設定することもできます。

注意：発行インスタンスを設定する前に、作成者インスタンスが設定およびデプロイ済みであることを確認します。

Correspondence Management Solution 用のソリューションテンプレートにログインできれば、これを確認できたことになります。詳しくは、7 ページの「[4.3 ソリューションテンプレートへのアクセス](#)」を参照してください。

- 1 発行インスタンス用のアプリケーションサーバーのプロファイルを、同じマシンまたは別のマシンに作成します。
- 2 作成者インスタンスで、[LiveCycle root]/configurationManager/export/ ディレクトリに移動します。
- 3 adobe-livecycle-publish-[appServer].ear ファイルをコピーし、手順 1 で作成したアプリケーションサーバーのプロファイルにデプロイします。
- 4 [LiveCycle root]/configurationManager/export/crx-quickstart ディレクトリを、発行インスタンス用のファイルサーバーにコピーします。
- 5 -Dcom.adobe.livecycle.crx.home=<location for crx qui kstart> パラメーターを使用して、発行サーバーを起動します。ここで、<location for crx-quickstart> は発行インスタンス用の crx-quickstart ディレクトリのコピー元の場所です。

注意：同じコンピューター上に作成者インスタンスと発行インスタンスが両方ある場合には、発行インスタンスを起動する際に必ず別のポートを使用するようにしてください。

発行インスタンスを起動して実行したら、2 つのインスタンスが互いに通信できるように設定する必要があります。

重要：Correspondence Management Solution でクラスター化を設定する場合は、CRX リポジトリパスにスペースが使用されていないことを確認します。

5.2.1 作成者インスタンスの設定

5.2.1.1 発行インスタンス URL の定義

1 <http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish.html> に移動します。

2 「Edit」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。

3 「Transport」タブをクリックして、パブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。

<http://<publishHost>:<publishPort>/lc/bin/receive?sling:authRequestLogin=1>

4 「OK」をクリックします。

注意：別のクラスターに対しては、1つの作成者インスタンス（できればマスターインスタンス）でこれらの手順を実行する必要があります。

5.2.1.2 ActivationManagerImpl の発行インスタンス URL の定義

1 <http://<authorHost>:<authorPort>/lc/system/console/configMgr> に移動します。

2 「com.adobe.livecycle.content.activate.impl.ActivationManagerImpl」設定の横にある「編集」アイコンをクリックします。

3 「ActivationManager Publish URL」フィールドで、対応する発行インスタンスの URL を指定します。

4 「保存」をクリックします。

5.2.1.3 逆複製キューの設定

1 http://<authorHost>:<authorPort>/lc/etc/replication/agents.author/publish_reverse.html に移動します。

2 「Edit」をクリックします。「Agent Settings」ダイアログが表示されます。

3 「Transport」タブをクリックして、対応するパブリッシュサーバーの URL を「URI」フィールドに入力します。

4 「OK」をクリックします。

5.2.2 発行インスタンスの設定

5.2.2.1 作成者インスタンス URL の定義

1 <http://<publishHost>:<publishPort>/lc/system/console/configMgr> に移動します。

2 「com.adobe.livecycle.content.activate.impl.VersionRestoreManagerImpl」設定の横にある「Edit」アイコンをクリックします。

3 「VersionRestoreManager Author URL」フィールドで、対応する作成者インスタンスの URL を指定します。

4 「Save」をクリックします。

5.3 LiveCycle と Correspondence Management Solution との統合

重要：この手順は、自動インストール以外の方法でデプロイメントを行った場合のみ実行します。さらに、作成者クラスターに対して、1つの作成者インスタンス（できればマスターインスタンス）でこれらの手順を実行します。パブリッシュクラスターに対して、これらの手順をすべてのパブリッシュインスタンスで実行します。

- 1 `http://[host]:[port]/lc/system/console/dsc` にアクセスし、ユーザー名に「admin」、パスワードに「admin」と指定してログインします。
- 2 Document Server の URL フィールドに `http://[host]:[port]` と指定されていることを確認します。

重要：ドキュメントサーバーが、指定されたホストとポートの組み合わせでリスンしていることを確認してください。LiveCycle サーバークラスターの場合、次の 3 つのシナリオが可能です。

- すべての LiveCycle サーバーインスタンスが **localhost** と同じポート上で実行している。この場合は、**localhost:[ポート]** を使用します。
- すべての LiveCycle サーバーインスタンスが **localhost** の異なるポート上で実行している。この場合は、ロードバランサーホスト名とポートの組み合わせ、すなわち [ロードバランサーホスト]:[ロードバランサーポート] を使用します。
- すべての LiveCycle サーバーインスタンスが特定のホスト名 (**localhost** ではない) と異なる / 同じポート上で実行している。この場合は、ロードバランサーホスト名とポート、すなわち [ロードバランサーホスト]:[ロードバランサーポート] を使用します。

LiveCycle サーバークラスターにアクセスするためにロードバランサー **URL** を使用する必要がある場合（上記参照）、作成者インスタンスとロードバランサー間の必要な通信ポートが開いていることを確認してください。

- 3 LiveCycle の管理者資格情報を、「Username」フィールドと「Password」フィールドにそれぞれ入力します。
- 4 Experience Server の URL フィールドに `http://[host]:[port]/lc` と指定します。

 Experience Server が、指定されたホストとポートの組み合わせでリスンしていることを確認してください。手順 2 のメモで説明したホスト / ポートの考え方が Experience Server にも適用されます。

- 5 「System user for accessing Experience Server」フィールドに、「**crxuserfordsc**」と指定されていることを確認します。
 - 6 「System user for accessing Document Server」フィールドに、「**dscuserforcrx**」と指定します。
- 注意：**手順 5 および 6 で説明したユーザーは、各パブリッシュインスタンスごとに異なる必要があります。
- 7 すべてのチェックボックスが選択されていることを確認します。
 - 8 「Configure」をクリックします。設定が完了すると、画面にメッセージが表示されます。

5.4 サンプルユーザーのインストール

ユーザー権限が事前に定義されたサンプルユーザーをインストールして、ソリューションテンプレートを検索し、独自のソリューションを構築するようカスタマイズすることができます。

- 1 `http://<authorHost>:<authorPort>/crx` に移動します。コンテンツリポジトリのコンソールが開きます。
- 2 「Package Share」をクリックして、アドビ ID およびパスワードを使用してログインします。
- 3 検索フィールドに「samples-correspondencemanagement-pkg」と入力し、Return キーを押します。

- 4 samples-correspondencemanagement-pkg-<version> パッケージの横にある「Download」をクリックします。ここで、<version> は検索結果に表示された最新のバージョンです。
- 5 使用許諾契約書に同意し、パッケージのダウンロードを確認するプロンプトが表示されたら「OK」をクリックします。
- 6 ダウンロードが完了したら、パッケージの横にある「Downloaded」をクリックして Package Manager を起動します。
- 7 Package Manager で、ダウンロードしたパッケージの横にある「Install」をクリックします。
- 8 確認ダイアログで「Install」をクリックし、サンプルユーザーをインストールします。
- 9 (オプション) 発行インスタンスにサンプルユーザーが必要な場合は、発行インスタンスに対して手順 1 から手順 8 までの操作を繰り返します。

ソリューションテンプレートを使用してソリューションを実装する場合のサンプルユーザーとガイドラインについて詳しくは、『Correspondence Management Solution ガイド』を参照してください。

注意: 別のクラスターに対しては、1つの作成者インスタンス（できればマスターインスタンス）でこれらの手順を実行する必要があります。

5.5 IPv6 実装の設定

注意: この手順は、IPv6 アドレスを使用するコンピューター上で Correspondence Management Solution が実行されている場合のみ実行します。

IPv6 アドレスをサーバーおよびクライアントコンピューターにマップするには：

- 1 C:\Windows\System32\drivers\etc ディレクトリを開きます。
- 2 hosts ファイルをテキストエディターで開きます。
- 3 IPv6 アドレスのマッピングをホスト名に追加します。次に例を示します。
`2001:1890:110b:712b:d1d:9c99:37ef:7281 <ipv6_hostname>`
- 4 ファイルを保存して閉じます。

Correspondence Management Solution へのアクセスに IPv6 アドレスではなくマップされたホスト名が使用されていることを確認します。

5.6 Adobe Reader 用日本語フォントのインストール

Correspondence Management のアセットで日本語フォントを使用する場合は、Adobe Reader 用日本語サポートパッケージをインストールする必要があります。インストールしないと、文字やフォームのレンダリングおよび機能が正常に実行されません。言語パックをインストールするには、Adobe Reader のダウンロードページにアクセスします。

5.7 Correspondence Management Solution のアンインストール

- 1 [LiveCycle root]\Uninstall_Correspondence Management Solution ディレクトリに移動します。
- 2 設定に応じて、Uninstall Correspondence Management Solution Installation アプリケーションまたはスクリプトを実行します。

3 指示に従ってアンインストール手順を完了します。

注意：Correspondence Management Solution のアンインストールを完了したら、Configuration Manager を再度実行するまでは、LiveCycle を実行できません。ただし、自動インストールデプロイメントの場合は、Configuration Manager を実行する前に、adobe-jboss-core.ear.orig ファイルの名前を adobe-jboss-core.ear に変更し復元する必要があります。

注意：アンインストーラーは、コンテンツリポジトリデータの削除は行いません。コンテンツリポジトリデータが不要になった場合は、[LiveCycle root]/configurationManager/export/crx-quickstart/ ディレクトリから手動で削除してください。

5.8 Dispatcher を使用した作成者クラスター / パブリッシュファームのロードバランシング

Dispatcher、Adobe の CRX 用キャッシングおよびロードバランシングツールを使用して、作成者インスタンス / パブリッシュインスタンスへのすべての受信リクエストをロードバランスできます。Dispatcher は、すべての Web サーバー（例えば Apache、IIS、iPlanet など）で使用できるプラグインとして提供されています。詳細は、この[技術記事](#)を参照してください。

次の Dispatcher 提供機能は、Correspondence Management の視点から見て重要です。

- ロードバランシング
- スティッキーセッション
- セッション管理

Apache インスタンスが LiveCycle クラスターのためにすでに使用されている場合は、別の設定ファイル (httpd.conf) を使用して別のポート上で別々のインスタンスを実行することで、同じ Apache インストールを使用できます。作成者インスタンスとパブリッシュインスタンスの両方を、同じ Dispatcher 設定を使用して処理できます。このシナリオでは作成者ファームウェアとパブリッシュファームの両方を設定する必要があります。

あるいは、作成者インスタンスとパブリッシュインスタンスに対して別々の Dispatcher インスタンスを設定することもできます。このシナリオを設定するには、次の変更を Dispatcher 設定ファイル dispatcher.any に加えます。

クライアントヘッダー Correspondence Management のカスタムヘッダー AEP-APP-ROOT を次のように追加します。

```
/clientheaders
{
  "referer"
  "user-agent"
  .....
  .....
  .....
  "AEP-APP-ROOT"
}
```

レンダー ファームウェア内の作成者インスタンスとパブリッシュインスタンスは、レンダーによって表現されます。これらのレンダー間でロードがバランスされます。

```
/renders
{
/node01
{
#hostname or IP of the render
/hostname "node1.com"
#Port of the render
/port "8080"
/timeout "0"
}
/node02
{
#hostname or IP of the render
/hostname "node2.com"
#Port of the render
/port "8080"
/timeout "0"
}
```

フィルター フィルターを使用すると、どのリクエストが Dispatcher モジュールで承認されるかを指定できます。他のすべてのリクエストはサーバーに戻され、Web サーバー上で実行されている他のモジュールに提供されます。

```
/filter
{
#deny everything and allow specific entries
/001 {/type deny /glob "*"}
/002 {/type allow /glob "* /admin/*"} # allow servlet engine admin
/003 {/type allow /glob "* /crx/*"} # allow content repository
/004 {/type allow /glob "* /system/*"} # allow OSGi console
/0023 { /type "allow" /glob "* /content*" } # disable this rule to allow mapped content only
}
```

スティッキー接続 スティッキー接続を「/」上で設定します。これは、Correspondence Management ソリューションコンテンツがさまざまなディレクトリ構造内に配置されており、「/」とは異なるパスにつながっているからです。

```
/stickyConnectionsFor "/"
```

セッション管理 Correspondence Management セッション管理には、Tlogin-token クッキーが使用されます。セッション管理セクションで次の設定を行います。

```
/header "Cookie: login-token"
```